JAはだの

発行所
秦野市農業協同組合
（神奈川県）
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711㈹
編集兼発行者 宮永 均

たわわに実った「豊水」を収穫する岩田さん

甘さたっぷり 品質も上々

シャッターチャンス

ＪＡはだの管内で9月上・中旬、梨の収穫がピークを迎えた。今年も甘さが乗り、品質は上々。果樹部会梨部の部員は連日、出荷作業に励んだ。

部員の一人、鶴巻北の岩田賀津美さんは、約55アールの圃場（ほじょう）で「幸水」や「豊水」など5品種を栽培。じばさんずに出荷した他、自身の直売所などで販売した。

同部の梨は、市の「秦野優良農産物等登録認証制度」の認証を受けている。農業生産工程管理（ＧＡＰ）も導入し、高品質な梨を生産している。

秋の座談会に多くの出席を

9月29日(金)～10月12日(木)

秋の座談会を9月29日（金）～10月12日（木）に、市内83会場で開催します。

2017年度上平期活動報告やＪＡはだのの自己改革の状況、地域の実態に沿った情報などについて話し合います。

ＪＡ運動には、組合員の声が必要不可欠です。1人でも多くの出席をお願いします。

今月の特集
4～5面

秦野には旬の味覚がいっぱい

落花生やサツマイモなど、旬の農産物が収穫シーズンを迎え、市内各地でＪＡや農家が農業体験を開いている。ＪＡの直売所なども来店者でにぎわっている。

東京都心で秦野産ＰＲ
アンテナショップを出店

やえのちゃんとぴーなマンが応援に駆け付けたアンテナショップ

ＪＡはだのは、良質な秦野市の農畜産物を大消費地でＰＲしようと、12～14の3日間、東京都渋谷区のＪＡ東京アグリパークにアンテナショップを出店した。「都心から1時間！秦野の豊かな自然とおいしい食材を大発見！」と題して、農産物や加工品などを販売。特設ブースでは日替わりイベントを開いた。3日間で約900人が来店し、会場は大いににぎわった。

ＪＡ東京アグリパークは、ＪＲ新宿駅から徒歩4分の距離にあるＪＡ東京グループの施設。多くの人が集まる都心で、農業の魅力や重要性をＰＲする情報拠点として、さまざまなイベントを開いている。

販売コーナーには、カボチャやタマネギ、ブドウなどの他、ケイトウなどを使った花束を彩り豊かにずらりと並べた。特産品の冷凍ゆで落花生「うでピー」や、ハウスミカンなどの試食販売も実施。サツマイモやニンジンなどの野菜詰め放題コーナーも人気を集めた。

秦野産の農産物が並ぶ販売コーナー

ＪＡはだのの各部署から職員が参加し、積極的に来店者に声を掛けた。都心から電車で約1時間というアクセスの良さを説明し、観光農業などの取り組みの他、「秦野たばこ祭」やさまざまな同市の名産品をＰＲ。オリジナルキャラクターの「やえのちゃん」と「ぴーなマン」も登場し、新宿駅前の大通りを行き交う人々に来店を呼び掛けた。

女性部員が指導したフラワーアレンジメント教室

日替わりイベントでは、12日に青年部員が落花生やトマトなどを対面販売。生産者本人が、丹精して育てた野菜や同市の農産物をＰＲした。13、14の両日には、女性部員による「ふるさとの味料理教室」「フラワーアレンジメントと芳香剤作り」を実施。材料に秦野の農産物を使っていることを説明しながら、来店者と共に太巻き寿司（ずし）やフラワーアレンジメントを作った。

メール情報配信サービス
QRコードで登録を

ＪＡはだのは、携帯電話やパソコンなどのメールを利用した情報配信サービスを行っています。月2回のメールマガジンと、営農・じばさんず・セレモニーホールなどのさまざまな情報を発信しています。上記のＱＲコードを読み取り、簡単な手続きを進めるだけで登録できます。

お問い合わせは組織教育課まで。☎81－7714

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

R70 古紙パルプ配合率70％再生紙を使用

職員一丸で自己改革
組合員の声 訪問日に聞き取る
「必要とされるＪＡ」へ

ＪＡはだのは、農家の所得向上に向け、職員一丸となって自己改革を推し進めている。「組合員訪問日充実月間」と位置付けた８月26、27日の組合員訪問日には、自己改革をテーマに組合員との対話活動に取り組み、さまざまなニーズを聞き取った。

組合員訪問日で農家から意見を聞くＪＡ職員

8月の組合員訪問日では、ＪＡグリーンはだのの肥料・農薬キャンペーンやＴＡＣ（地域農業の担い手に出向く営農担当者）活動、じばさんずで販売している「はだの丹沢苺（いちご）サイダー」などを中心に、多くの意見が挙がった。

特に多くの話題に上ったのが、ＪＡグリーンはだのの肥料・農薬キャンペーンだ。「生産コスト低減につながる良い取り組み。今後も継続してもらいたい」などの声が多かった。一方で「商品の種類を増やしてほしい」「資材の規格をもっと小ロットにすべき」などの意見も寄せられた。

ＴＡＣ活動については「栽培方法や資材の情報を提供してもらえて助かる」「すぐに駆け付けてくれるし、相談しやすい」など好評。准組合員は特にサイダーへの関心が高く「秦野の農産物を使っているので安心して飲める」「おいしかったので、他の商品が出たらまた買いたい」などの声が多かった。

ＪＡは9月29日～10月12日に、各地区で秋の座談会を開く。今後も組合員のニーズを自己改革に反映させ、地域から必要とされるＪＡづくりに努めていく。

ＴＡＣが作成した「近隣店舗価格調査表」

ＴＡＣ他店の価格情報提供

ＴＡＣは組合員からの声を受け、じばさんずのバックヤードに「近隣店舗価格調査表」を新たに設置した。市内量販店などの農産物の販売価格を表示したもので、出荷者が価格設定する際の目安にしてもらい、適正価格での販売を促す。

調査表は、縦42センチ、横59・4センチで、市内量販店とネットスーパー合計3店舗の税込み価格や個数、産地を掲載している。対象の農産物は、同店が出荷者向けに毎日発表している販売ランキングの上位約10品目。特に来店者が多い土・日曜日に合わせ、毎週金曜日に情報を更新する。

調査表を作成したきっかけは、農家への訪問活動をしている際に、同店出荷者から「価格設定の基準を知りたい」などの声があったこと。同店は出荷者が自由に価格設定できるため、高品質な農産物を一般的な相場より低価格で販売している場合もある。そこで、ＴＡＣ4人が意見を出し合い、調査表を完成させた。

ＴＡＣを務める北原慶徳農業振興係長は「今後も訪問活動を続け、農家の声に積極的に応えていく。集めた情報から〝売れる農産物〟を見いだし、農家への栽培指導にもつなげていきたい」と意気込む。

接近！おじゃまします ㉞㊹（344）

自然相手に毎日が勉強

下大槻の
髙橋（たかはし） 仁志（ひとし）さん（54）

露地と施設で野菜を栽培している下大槻の髙橋仁志さん。農家の長男として生まれ育った髙橋さんは大学卒業後、一般企業に就職。平日は物流機器の製造や営業などの仕事に励み、休日や繁忙期には両親の農作業を手伝っていた。

その後、畑で汗を流す両親の姿を見て「代々受け継いできた農業を絶やしてはいけない」と、退職を決意。今年で就農から4年目を迎え、野菜作りに忙しい毎日を過ごしている。

現在、合計70アールほどの圃場（ほじょう）でキャベツやハクサイなどを中心に、約20品目を栽培。堆肥などを活用した土づくりにこだわり、品質の高い野菜をじばさんずや市場などに出荷している。

「農業は毎日が勉強。自然が相手なので、やればやるほど難しさが分かる」と話す髙橋さんは、試行錯誤しながら日々の農作業を進めている。両親にノウハウを教わるのはもちろん、同店に出荷する際には先輩の農家らと積極的に情報を交換。受けたアドバイスを栽培管理や品目選定などに役立てている。

「サポートしてくれる家族や農家の仲間がいて、とても助かっている」と感謝の言葉を口にする髙橋さん。「頑張った分だけ成果が出るのが農業の魅力。作った野菜がお客さんに〝買って良かった〟と思ってもらえるよう、これからも意識を高く持ちながら、より良いものを作っていきたい」と笑顔を見せた。

やえのちゃんぴーなマンの「ＪＡってなに？？」
事業を広げる連携や連帯

ぴーなマン　先月は「協同組合原則」の第５の原則について聞いたよね。やえのちゃん、今度は第６の原則について教えて。

やえのちゃん　第６の原則は、協同組合間の協同よ。組合員のニーズに十分応えられるような事業を展開するためには、協同組合同士が手を取り合って連携する必要があるわ。

ＪＡはだのは、福岡県のＪＡにじ、福島県のＪＡ東西しらかわと「友好ＪＡ協定」を結んでいるのよ。他にも、生協など種類の違う協同組合と連携して販路を広げたり、国際的にも連帯することが重要なの。

協同組合先進国から発展途上国の協同組合に対して、開発援助などをすることもあるのよ。

ぴーなマン　地域や国境を越えて手を取り合うことが大切なんだね。

ありがとう、やえのちゃん。来月は第７の原則について教えてね。

R70 古紙パルプ配合率70％再生紙を使用

味わい旬楽しむ

収穫体験、直売所にぎわう

ＪＡはだの管内で、落花生やサツマイモなどの旬の農産物が収穫シーズンを迎えている。市内各地で収穫体験イベントが開かれ、家族連れを中心に県内外から多くの観光客が訪れる。ＪＡの直売所などにも地元農家が出荷した新鮮で安全・安心な農産物が所狭しと並び、にぎわいを見せている。

サツマイモ掘り取り 調理方法も伝授

市内のサツマイモや落花生の掘り取り観光がスタートし、県内外から訪れた多くの来園者でにぎわっている。地元の生産者が協力して観光組合を立ち上げ、今年度は堀山下、堀西、東田原の3地区にオープン。気軽に収穫が体験できると人気を集めている。

同市の掘り取り観光は首都圏からのアクセスの良さに加え、丹沢山系に面した豊かな自然の中で体験ができることが特徴。農家から調理方法や昔ながらの保存方法などを直接聞けるのも魅力の一つとなっている。

農家にとっても、農業のＰＲとファン拡大につながる取り組みだ。

9日には、3地区合わせて30組以上、約100人が来園した。サツマイモの農園では、収穫しやすいように農家がサツマイモのつるを切るなど準備。来園者は収穫方法を教わりながら、一つ一つ丁寧に掘り起こした。

藤沢市辻堂から家族で訪れた近藤哲司さんは「初めて参加したが、家族で楽しめた。参加して良かった」と笑顔を見せた。

東田原ふれあい農園組合の高橋俊宏さんは「秦野の豊かな自然を肌で感じながら、収穫体験を通して農業の魅力を知ってほしい」と期待を寄せた。

親子で力を合わせてサツマイモを収穫

栗 早生で有利販売

果樹部会くり部は4日、今シーズンの栗の出荷を始めた。部員4人がＪＡ選果場に次々と持ち込み、合計51・1㌔を集荷した。今年は、8月の長雨などの影響で例年より出荷が4日ほど遅れたものの、品質は上々だ。

同部は、早生種の「出雲」や「国見」などを中心に栽培。出荷時期を主要産地とずらすことで、有利販売に努めている。

集荷した栗は、評価員を務める部員らが選別した後、選果機で磨いて規格ごとに分けた。その後、ＪＡ全農かながわ中央ベジフルセンターに送り、県内の量販店などの店頭に並んだ。

小澤明部長は「部員の高齢化が進んでいるが、これからも互いに協力しながら共選共販の出荷体制を維持していきたい」と意気込む。

栗を選果機に投入する部員

栗の無料配布も

8日には、秦野市園芸協会が開く「フルーツまつり」の一環で、加藤秀雄副部長がじばさんずで栗を無料配布した。

配布したのは、くり部の部員が丹精して育てた栗約60袋。来店者に一袋ずつ手渡しながら、秦野産の栗をPRした。

来店者からは「秦野のおいしい栗が味わえてうれしい」「家族に栗ご飯を作りたい」などと笑顔があふれた。

加藤副部長が来店者に栗をPR

落花生で地域活性化

南支所運営委員会 農家と共に収穫体験

南支所運営委員会は、特産による地域活性化を目指し、初めて地域住民らを対象とした落花生の収穫体験を開いた。14組約70人が9日、立野台の圃場（ほじょう）で、委員会を構成する農家らと共に、収穫などの作業に汗を流した。

同体験は、1区画当たり3500円で約60株を収穫でき、5㌔の収量保証が付いている。

委員らは、事前に東京都練馬区にある農業体験農園を視察するなど、企画を練ってきた。PRに向け、ＪＡ職員が手作りのちらしを作成し、管内の組合員全戸に配布。さらに、圃場を管理する青年部の高橋勇太さんとＪＡ職員が、圃場周辺の住宅を一軒ずつ訪問して参加を呼び掛けた。

当日は、農家から品種の特徴、同地区の農業の概況などについて説明を受けながら落花生を収穫した。農家と共に脱粒作業にも励み、交流を深めた。

高橋委員長㊥と脱粒作業に汗を流す参加者

アジアとの共生を

組合員13人タイに派遣 農協や学校を視察

ＪＡはだのは、組合員ジアの国々に毎年派遣し「アジアとの共生」を一層推し進めるのが狙い。

9～13日には、団長を務める観音北の清水義雄さんら13人がタイを訪問。現地の農協や学校などを視察し交流を深めた。

視察団は、ペチャブリ県のバンラート農協と力オヨイ農協を訪れ、管内で生産されているバナナや米などの生産概況を学んだ。同県のワットノンケイ学校とワットノンプロン学校も訪問し、児童が描いた絵画や書道を交換した他、子どもたちと現地の伝統的な踊りを踊った。バンコク市内のCPD（協同組合振興局）では、農協改革などのＪＡを取り巻く環境の変化について情報を共有した。

バンラート農協を訪れた視察団

成長確かめ 脱粒も体験

落花生オーナー

はだの都市農業支援センターが開いている「落花生農園オーナー」の圃場（ほじょう）では、オーナー家族が5月に種をまいた落花生が収穫期を迎えた。9日には、県内外からオーナー家族約150人が訪れ、収穫を満喫した。

落花生の脱粒をするオーナー家族

オーナーらは、農家から収穫手順を聞いた後、自分の区画に分かれ、落花生の成長を確かめながら丁寧に引き抜いた。脱粒も体験し、作業中は農家や他のオーナーらと会話を弾ませて交流を深めた。

東京都練馬区から参加した池永喜一さんは「昨年親戚からもらった落花生がとてもおいしかったので、今年は家族で一緒に参加した。作物を育てることは子どもにとって良い体験になると思う」と笑顔を見せた。

受け入れ農家の山口斧助さんは「これからも支援センターと手を取り合って、農業の楽しさや秦野の落花生のおいしさを伝えたい」と話した。

バターナッツを出荷する小室さん

じばさんずバターナッツ好評

どの秋の味覚が数多く並んでいる。店内は、旬を求める多くの来店者で連日にぎわいを見せる。

約1㌶の圃場（ほじょう）で露地野菜を栽培する渋沢の小室貢さんは、カボチャの品種の一つである、バターナッツを出荷している。強い甘味が特徴で、スープはもちろん、電子レンジで蒸すだけで手軽においしく味わえる。

来店者の声を受けて3年ほど前から栽培を開始。堆肥や油かすなどの有機質の肥料を中心に土づくりをすることで、品質の高いバターナッツを作っている。来店者からも好評で、多くのリピーターから愛されている。

小室さんは「7月の気温が高かったこともあり、上々の出来。11月まで出荷する予定なので、ぜひ手に取ってみてほしい」と話している。

親子が女性部員と交流 ままメートクラブ

ＪＡはだのは14日、本（ま）まメートクラブ」を開いた。市内の親子17組が参加所で子育て支援事業「ま

女性部員と交流を深める親子

女性部員と調理を進める児童

加し、協力する女性部員らと交流を深めた。

イベントを盛り上げたのは、女性部員的別趣味グループ「笑顔（ほほえみ）」と「歩こう会」、女性部員の石田ヨシ子さん。親子は腹話術人形と触れ合ったり、手作りのマラカスを振りながら童謡を歌ったりした。童話の読み聞かせを満喫した他、おやつにエーコープマーク商品を使った青リンゴとアドウのゼリーなどを提供してもらった。

ＪＡは女性部員の協力を得て、12月にも同クラブを開く予定だ。

すいとん作りに挑戦 ちゃぐりんスクール

ＪＡはだのは16日、本所農業団地センターで「第5回ちゃぐりんスクール」を開いた。今回のカリキュラムは、地場産農産物をふんだんに使った「すいとん」作り。市内の小学3～6年生44人が参加した。

食材には、米粉や児童が5月に植え付けたサツマイモ、女性部員が「大豆プロジェクト」で作ったみそなどを使用した。

女性部員の指導の下、児童はサツマイモを切ったり米粉を混ぜたりして調理を進めた。その後、完成したすいとんを女性部員らと食べながら、交流を深めた。

参加した児童の一人は「おいしかったからお母さんと一緒に作りたい」と笑顔で話した。

地域盛り上げ 笑顔が不可欠

文化講演会 東国原氏が登壇

ＪＡはだのは8月27日、秦野市文化会館で元宮崎県知事の東国原英夫氏を講師に招き、第25回文化講演会を開いた。

組合員教育事業の一環として、協同組合運動の理念を広く理解してもらうことが目的。地域住民ら1220人が集まった。

東国原氏は、冗談を交えながら自身の生い立ちや経験などを中心に講演。ビートたけし氏に弟子入りしていた時にはチャンスを逃さないことの大切さを、県知事時代には地方創生に笑顔が必要不可欠と感じたことなどを話した。

開演前には、女性部員的別趣味グループ「麗美の会」が舞踊を、「コール・ポエジー」がコーラスを披露し、講演に花を添えた。

講演する東国原氏

長寿者に記念品贈呈 いきいきライフ支援事業

おめでとうございます。末永くお元気でお過ごしください。

100歳
▽南地区＝加藤ハツ（平沢）

88歳（米寿）
▽大根地区＝高橋ナツ（北矢名）神戸良造（北矢名）
▽本町地区＝磯部初江（ひばりが丘）
▽東地区＝白井美代子（西田原）
▽北地区＝柏木君江（戸川）
▽上地区＝和田伯康（柳川）

77歳（喜寿）
▽大根地区＝平松興一（北矢名）
▽本町地区＝浅田和夫（入船町）三嶺八雄（本町）井上紀美子（曽屋）
▽西地区＝遠藤克雄（堀山下）栗原政雄（渋沢）
▽上地区＝加藤三郎（三廻部）府川永子（曽屋）

※自己申告ですので、該当の方は各支所・支店までご連絡ください。

女性部員と調理を進める児童

組合員ゴルフ大会 東垂水さんが優勝

ＪＡはだのは4日、大秦野カントリークラブで第31回組合員ゴルフ大会を開いた。組合員143人が参加した。

順位は、新ペリア方式でハンディを算出し決定。曽屋の東垂水実さんが見事優勝に輝いた。東垂水さんには、山口政雄組合長が賞状の他、名水はだの米30㌔を贈呈した。

結果は次の通り。◎優勝＝東垂水実（曽屋）◎準優勝＝山口昇（上今川町）◎3位＝池田昇（平沢）

発見 頑張り屋さん No.413

明るく元気に家族と共に

菖蒲で飲食店「みや古食堂」を営む臼井昭二さん。都内で勤めていた時に仕事の関係で秦野を視察。同市の豊かな自然にひかれ、「ここで子どもを育てたい」との思いから1963年に移り住んだ。同時に、義父が調理師免許を持っていたことをきっかけに、家族で力を合わせて同店をオープンした。

菖蒲の一 臼井（うすい） 昭二（しょうじ）さん（75）

――心掛けていることは？

当然ですが、衛生面です。肉から野菜など、違う食材を扱う前には必ず手を洗います。どんなに忙しくても徹底して行うことで、お客さまが安心して食べられる料理を提供しています。

――食材は？

上地区の農家の方から直接仕入れています。手に入らないものは別で仕入れますが、ほぼ地場産の野菜を使っています。新鮮な野菜を使っているので、お客さまから「キャベツがシャキシャキしている」とお褒めいただくこともあります。

――こだわりは？

野菜たっぷりのボリュームある料理と約120品の豊富なメニューです。オープン当初からの人気メニューは「鉄板焼き定食」や「煮カツ定食」です。そのほか、炒め物や揚げ物、麺などの定番メニューの他にも、鹿肉が手に入った時だけの限定食「シカ鍋定食」などを提供しています。

――JAとのつながりは？

店を建てたときに、JAに有線を引いてもらったのが始まりです。今でも米の配達や貯金、共済などの取引をしています。

――今後の展望は？

明るく元気に、家族と協力しながら長く営業を続けていきたいです。

文芸の窓

＜俳句＞（酒井　敏光　選）

散らかりし薬袋や夏暑し　志賀　明子（千村）

評　病とは仕方のないもので嫌が上にも薬であり、その薬にしても病気によって幾種類か時間を割って服用するなど…暑さの夏の薬袋の混沌よく分かる

金時の峰に雨雲山の日よ　芦川　松江（八沢）
樹の皮の匂う腐木や秋の風　石原　松枝（渋沢）
花蕎麦や白一面の清しさよ　酒井　紗恵（桜町）
空に海あるかに展ぐ鰯雲　柴崎　和子（渋沢）
激っ水の夕べ冷えくる秋の滝　高橋　順子（大秦町）
「ころぶなよ」気使う二人星月夜　柳川みち子（栄町）
たらちねの軽みたる身に秋闌けて　佐藤英美子（南矢名）
敬老日とどく案内孫の文字　森高　由子（渋沢）
秋暑し暮れぎわ妻の売り言葉　高島美和子（名古木）
蝉の羽化自然のいろへ刻を経し　吉田　清美（渋沢）
ビタミンの色の花束敬老日　菊池としえ（菩提）
昼月の余生や徐々に黄昏る　選者

＜短歌＞（久保寺　富男　選）

讃美歌の流るる森に蝉しぐれ木漏れ日も添え門出寿ぐ　久保田　浩（寺山）

評　結婚式の歌であり、一読して作者の思いが伝わってくるが、材料が多すぎた。何もかも入れようとすると、主題が弱くなる。たとえば、「木漏れ日のたゆとう森にながれゆく讃美歌に二人の門出寿ぐ」くらいで良いのではないか。

譲られし電車の席に座りつつわが身の番かとさみしくもあり　細田　富士（千村）
保育園の前を通れば聞こえくる童謡が私を過去に連れ去る　八木　実（鶴巻北）
ふらふらと立ち上がる老犬にわが杖貸したとおもひぬ今日は秋晴　今井　かめ（羽根）
終戦の年は秦野も空からの銃弾降った工場や畑へ　伊東　久（渋沢）
城守ると散りにし少年ら顕たしめて大手の土手に曼珠沙華咲く　選者

今月の理事会

9月22日に理事会を開催し、次のことを審議しました。
▽2017年上半期事業報告について
▽組合員教育対策委員会への諮問について
▽育児・介護休業等取扱規程の変更について
▽高額貸出金の借入申し込みについて

仕業点検、小まめに休息
農作業事故ゼロに
10月31日まで安全運動

ＪＡはだのは、9月15日から農作業事故撲滅を目的に、秋期農作業安全運動を実施しています。期間は10月31日まで。

農業従事者の高齢化などにより、農作業中の傷害事故が年々増加傾向にあります。農業機械を使用する前には、必ず整備や仕業点検をし、小まめに休息を取るなど、事故防止に努めましょう。

家の光 今月の新刊

明日のおかずも一緒に仕込める　忙しい人のための
「ついでレシピ」
笠原将弘　著

今夜のおかず作りのついでにできる簡単ストックで、明日と明後日の料理がグッとラクに！　段取り名人・笠原将弘氏が教える、忙しい人のための調理テクニック。保存もできるからさまざまな料理に展開できる。
定価1404円（税込み）

箱詰め名人の持ちよりベストレシピ
いづいさちこ　著

開けた瞬間に歓声が上がる、彩り豊かな箱詰めレシピのアイデア集。前菜からメインおかず、スイーツまで、美しい詰め合わせテクが満載。

身近な容器や空き箱をリサイクルするので、誰でもすぐにまねができる。
定価1512円（税込み）

秦野の農家ご飯
鶏チャーシュー
東支部　西沢生活班　小泉幸子

■材料（４人分）■
鶏もも肉２枚、ニンニク２片、長ネギ２本、調味料（赤みそ大さじ２、砂糖大さじ２、豆板醤＝とうばんじゃん＝大さじ１、しょうゆ大さじ２、酒大さじ３、水２カップ）

＜作り方＞
①鶏もも肉は筋切りして、皮面にはフォークで数か所穴を開ける
②ニンニクはたたいてつぶす。長ネギは５㌢の長さに切る。
③鍋にニンニク、長ネギ、調味料を全て入れて一度煮立てる。
④鶏もも肉を入れ、落としぶたをして中火で煮込み火を通す。
⑤一度冷やし、食べる直前にもう一度温める。

＜ひとことアドバイス＞
一度冷ますことで味が染み込みます。残った汁に水を足し、季節野菜と溶き卵を入れるだけで鶏肉のうま味たっぷりのスープが出来上がります。１度に２品、食材全てを活用できるレシピです。スープはお好みの濃さに薄めてください。

〝晴れ舞台〟の演奏に感謝
「琴修会大正琴フラワーハープ」

ＪＡデイサービスセンターはだののイベントやボランティア活動を紹介します。

◇

楽しいよ デイサービス

私たちは本町公民館で月に2回、大正琴を学んでいます。人数は女性7人で、結成から7年目です。楽器の習得は思った以上に根気のいることですが、今まで演奏できなかった曲を上手に弾けるようになったときは、天にも昇るうれしさです。

ＪＡデイサービスセンターはだのの利用者の皆さまに、日頃の練習の成果を見ていただけることは、まさに晴れ舞台を踏ませていただいていることになります。本当に感謝です。

◇

お問い合わせは、ＪＡデイサービスセンターはだのまで。☎85—5177

10月６日〜15日
ボードン・テープキャンペーン
ＪＡグリーンは頑張る農家応援

ＪＡグリーンはだのは10月6日（金）〜15日（日）、野菜用ボードン袋やテープ類などの割引キャンペーンを実施します。期間中は特別価格で販売しますので、お得なこの機会にぜひご購入ください。

お問い合わせはＪＡグリーンはだのまで。☎81—7719

税務相談日　10月10日（火）午前９時30分〜
法務相談日　10月20日（金）午後１時30分〜
場所　ＪＡはだの本所２階　組織教育課
☎81—7714
・予約制となっていますので、事前にお電話にてご予約をお願いします。
・受け付け順に相談時間が決まります。

結婚相談日
10月10日（火）
時間　午前９時〜正午
場所　ＪＡはだの本所　農業団地センター１階
お問い合わせ
組織教育課☎81—7714

休日ローン年金相談会
●住宅の新築・お借り換えやお車のご購入、お子さまの教育資金など、各種ローンのご相談を無料で承っております。お気軽にご相談ください。
●これから年金を受け取る皆さまの複雑な受給手続きのお手伝いをさせていただきます。
日時　10月22日(日)
※時間は午前9時〜午後4時まで
どなたでもご相談いただけますので、お気軽にご来場ください。
会場　JAはだの本所　農業団地センター
ご来場の方に記念品を進呈
それぞれ事前予約をされると便利です。
◆各種ローンを相談される方は融資課に
◆年金受給手続きを相談される方は信用課に
■融資課 ☎81-7713　当日は 0120-954-093
■信用課 ☎81-7716　当日は 0120-954-092

学費をサポート！　JAバンクは、進学の夢を応援します。　とくとくプラン
JA教育ローン
お使いみち
入学金、授業料、学費、パソコン購入費、アパート等入居費用、海外渡航費等教育費用に関するもの。
QRコード読み取り可能な端末はこちらから
インターネットでかんたん事前審査申し込み！
PC・スマートフォンでご利用可能！
JAはだの　検索
詳しくは各支所・支店または融資課まで　TEL 81-7713

白、赤、黄　色鮮やかに
小菊出荷が最盛
県内外へ彼岸向け
花持ちボリュームに定評

秋の彼岸を目前にした９月中旬、ＪＡはだの管内で小菊の出荷が最盛を迎えた。県内外の市場やＪＡの直売所への出荷に向け、花き部会露地部の部員らは収穫や選別、箱詰めなどの作業に連日汗を流した。

部長を務める平沢の柳川賢治さん・美和子さん夫妻の作業場には、出荷を待つ白、赤、黄の色が鮮やかな小菊が所狭しと並んでいた。多い日には、1日6000〜7000本を小田原市や静岡県の市場などに出荷した。

栽培管理には、40年以上小菊を生産している夫妻の技術が光る。連作障害を防ぐため、毎年、定植前には土壌消毒を徹底している。小菊の状態を見極めて、病害虫の防除や追肥などをすることで、濃緑の葉がバランス良く付いた良質な小菊を作り上げている。昨年6月の県花き立毛共進会では、肥培管理などが高く評価されて、2度目となる農林水産大臣賞に輝いた。

県内トップの生産量を誇る秦野市の小菊。市場関係者からは「花持ちが良く、全体的にボリュームがある」などと人気が高い。

作業場で小菊を選別する柳川さん夫妻

会員が生産した農産物や加工品を古谷市長㊥に手渡した

若手農家が市長と交流
施策に意見反映を

秦野市農業後継者クラブ「秦友会」は8月31日、秦野市役所を訪れ、古谷義幸市長と交流会を開いた。会員8人が、同市の農業の現状や今後の施策などについて積極的に意見を交わした。

会員は、それぞれが生産した農産物や加工品を古谷市長に贈り、日頃の支援に対する感謝を伝えた。その後、同市の特産である落花生の生産量が減少していることへの対策や、新規就農者に対する施策などについて意見を交換。圃場（ほじょう）周辺の住宅の増加など、営農環境の変化も伝え、市が地域住民に農業理解を促していくよう訴えた。

宮村真樹会長は「若手農家の声を市の施策に反映してもらえるよう、継続して交流会を開いていきたい」と話した。

良質な種子確保へ圃場巡回
相州落花生協議会

県や市、全農、ＪＡなどで構成する相州落花生協議会は、市内の農家に落花生の生産を委託し、ＪＡ販売用の種子の生産や品種の確保に努めている。8月23日と9月8日には「郷の香」や「改良半立」を栽培する農家7人の圃場（ほじょう）を巡回し、栽培管理などを指導した。

ＪＡ職員らは数株ずつ引き抜き、採取した落花生の生育状況を確認。農家に病害虫の防除方法や収穫適期などを伝えた。今年は一部の圃場で白絹病が発生していたものの、品質は上々だ。

今後、ＪＡが10月上・中旬に落花生を集荷して貯蔵。県農業技術センターで発芽試験を行い、来春にＪＡグリーンはだので種子を販売していく予定だ。

採取した落花生の生育状況を確認するＪＡ職員ら

受賞おめでとう！
日頃の成果を発揮

第28回秦野市落花生立毛共進会を8月16日と9月7日に、市内圃場（ほじょう）と農業団地センターで開いた。審査の結果は次の通り。

▽優秀賞＝清水正夫・郷の香・改良半立（鶴巻南）▽優良賞＝山口明・郷の香（堀山下）今井洋司・改良半立（横野）▽佳良賞＝小清水寅次郎・改良半立（下大槻）髙橋仁志・郷の香（下大槻）大庭和雄・郷の香（西大竹）町田フヂ・改良半立（東田原）

◇

果樹部会くり部は6日、選果場で栗果実品評会を開いた。審査の結果は次の通り。

▽優秀賞＝加藤秀雄（羽根）▽優良賞＝小室豊彦（渋沢）小泉一雄（名古木）

☆営農技術☆ ヒント・ポイント

■農業技術センター　0463-58-0333
普及指導部――果樹花き課　果樹（伊藤）
野菜課（吉岡）
作物加工課　作物（辻本）
協力
■農業技術センター足柄地区事務所　0465-83-5111
普及指導課――花き（勝間田）

水稲

水稲の収穫・乾燥作業のポイント

1．収穫時期

稲をよく観察し、籾（もみ）の黄化率を確認して適期に収穫しましょう。

6月中旬植えまでの「キヌヒカリ」と「はるみ」、6月上旬植えまでの「さとじまん」は、既に収穫期を迎えています。刈り遅れは、穂発芽や胴割れ粒などの発生を助長し、品質低下につながります。天候を見極めて早めに収穫しましょう。

6月中旬植えの「さとじまん」は、籾の黄化率が90%となった時期が成熟期です。穂の軸や籾が付いている枝（枝梗＝しこう）に緑色が残っている場合がありますが、籾の色だけで判断します。

2．落水時期

落水時期は、出穂後30日後または収穫10日前とし、早期の落水は避けます。早期落水は、未熟粒や胴割れ米などの障害粒が急増するので注意が必要です。

3．乾燥作業と胴割米の注意

収穫直後の籾は水分を多く含んでいます。籾が蒸れないよう、収穫後4時間以内に乾燥機に入れます。

また、コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると、胴割れ米が発生するので、初めは送風のみにして水分を均一化した後に火を入れ、40度以下の温度で徐々に乾燥させます。減乾率は1時間当たり0・5〜0・6%が目安です。仕上がりの玄米水分は、14・5〜15%とします。

乾燥のし過ぎは、食味を落とすだけではなく、胴割れなどにより品質も落とすので、適正な水分に仕上げましょう。

4．調製作業

1・8㍉以上のグレーダーで丁寧に調製し、細粒を除き、品質の良い玄米に仕上げましょう。（辻本）

野良からこんにちは

井上範子さん（落合）
「ニンジンを大事に育てています。収穫できたら、家族みんなで食べたいと思います」

髙橋春子さん（西大竹）
「ネギの畑で草取りをしています。11月になったら収穫して、市場に出荷する予定です」

声掛け楽しくバドミントン

サーブスマッシュ熱戦

女性部は８月28日、上小学校の体育館で球技大会（バドミントンの部）を開いた。部員の健康増進と相互の親睦を深めることが目的。部員20人が参加した。

渾身（こんしん）のスイングをする部員

健康増進し親睦深める

試合はA・Bブロックに分かれたダブルスの総当たり戦。熱戦を繰り広げ、ブロックごとに優勝ペアを決めた。コート内ではペアになった部員同士が声を掛け合いながら試合を展開。サーブやスマッシュなどで相手チームを攻め、日頃の練習の成果を発揮した。

参加した部員は「運動不足を解消する機会になっている。仲間と良い汗をかいて、楽しくプレーできた」と感想を話した。

◎優勝ペア
Aブロック＝守屋悦子・細川隆子ペア
Bブロック＝府川ひろみ・渡辺一恵ペア

ふるさと料理で交流

フレミズのつどい

女性部は4日、本所でフレッシュミセスのつどいを開いた。部員ら17人が、ふるさと料理を作りながら交流を深めた。

指導を受けながらばら寿司を巻いた

調理したのは地場産農産物を使った「ばら寿司」「そば寿司（ずし）」「おやき」「茶ケーキ」の3品。講師は、本町支部の石田ヨシ子さん、南支部の稲毛うめ子さん、北支部の山口栄子さんの3人が担当した。

参加者は、講師の指導の下、互いに手順を確認しながら、伝統料理を学んだ。

参加者の一人は「普段は作らない料理を学べた。みんなで調理して楽しかった」と話した。

いきいき女性部活動

「箏曲　雅会」

代表　石塚幾代

現在、部員6人で毎週火曜日の午前中に山口ヨウ子先生のお宅で箏（こと）の練習をしています。農業まつりの芸能大会や文化交流会の出演に向けて2曲をレッスン中です。部員の高齢化に伴いボランティア活動も少なくなりましたが、合奏する楽しみを部員と共有できる幸せを味わっています。

レッスンの後は、みんなでお昼ご飯をいただきながら反省会を兼ねたお話をするのも楽しみとなっています。

10月の女性部行事予定表

2日（月）	13：00	西湘地区提携福祉推進委員会
3日（火）	9：00	第37回女性部運動会（雨天４日）
5日（木）	9：30	ふるさと料理教室（みなみがおか幼稚園）
6日（金）	9：30	第２回農業まつり運営委員会
〃	13：30	女性部本部役員会
12日（木）	9：30	女性部支部役員会（南・西）
〃	13：30	女性部支部役員会（大根・本町）
13日（金）	11：00	ＪＡはだの・家の光クッキングフェスタ
16日（月）	9：30	女性部支部役員会（東）
〃	13：30	女性部支部役員会（北・上）
17日（火）	10：30	ＪＡはが野女性会との交流会
24日（火）	9：30	ふるさと料理教室（南幼稚園）
25日（水）	9：30	ふるさと料理教室（つるまきこども園）
30日（月）	8：00	上支部「支部旅行（横浜港）」
〃	9：30	南支部「お茶飲み交流会」
31日（火）	9：30	東支部「お茶飲み交流会」

支部だより

ふるさと料理教室

北支部

北支部は7日、北公民館で市立北幼稚園の園児の母親を対象に「ふるさと料理教室」を開いた。27人が、そば打ちを体験した。

女性部員は、そば粉に水を少しずつ加え、乾燥しないように手早くこねるよう指導。参加者は、生地の固さや包丁の使い方などを教わりながら作業を進めた。その後、部員手作りの地場産野菜を使ったかき揚げと一緒にそばを味わい、食農紙芝居を鑑賞した。

厚さを確認しながらそばを切った

大根支部

お茶飲み交流会

大根支部は14日、同支所で高齢者の生きがいと仲間づくりを目的に「お茶飲み交流会」を開いた。20人が参加した。

大根支部のメンバーら6人が協力。参加者と一緒に歌を歌い、室内でできるスポーツをして体を動かした。昼食には地場産野菜を使ったみそ汁を堪能した。その後、伊勢原協同病院から招いた講師が、「いつまでも美味（おい）しく食事を食べていただくために」と題して講話。誤嚥（ごえん）を防ぐために、姿勢を正して食べることなどを説明した。

講話に耳を傾ける参加者

油を加えて混ぜる部員

南支部

ヘチマ化粧水作り

南支部は13日、南支所でヘチマ水を使った化粧水を作った。部員20人が、持参したヘチマ水をろ過してグリセリンやエタノールなどを混ぜ合わせた。容器に移し替えた後、オリジナルのシールを貼って300本の化粧水を完成させた。

ヘチマ化粧水をボトルに注ぎ入れた

ヘチマには皮膚細胞を活性化させ、肌に栄養と潤いを与えるさまざまな栄養素があり、毎年部員に人気の活動となっている。飯田房代支部長は「10年以上続く活動なので、伝統として引き継いでいきたい」と話した。

西支部

廃油せっけん作り

西支部は13日、西支所で使用済み油を使ったせっけんを作った。部員11人が参加した。

部員は、湯に溶かしたカセイソーダに使用済みの油を少しずつ加えて混ぜ、牛乳パックに流し入れた。

できたものは家に持ち帰り、1週間から10日かけて固めた後、使いやすい大きさに切って天日干しして完成させる。参加した部員の一人は「汚れがよく落ちるので便利。油の再利用にもなる」と話した。

お知らせ板

10月の年金相談会

年金の受給に関する無料の相談会を開きます。個別にご相談をお受けしますので、お気軽にご来所ください。

◎10月6日（金）秦野駅前支店
◎10月22日（日）本所農業団地センター2F
時間は午前9時から午後4時まで。相談を希望される方は、支店または信用課まで事前予約をお勧めします。

お問い合わせは秦野駅前支店（☎81－3922）、または信用課（☎81－7716）まで。

大根・鶴巻休日ローン相談会

鶴巻支店で各種ローンに関する相談会を開きます。お気軽にご相談ください。

◎日時　10月1日（日）午前9時～午後4時
◎場所　鶴巻支店
相談を希望される方は、事前予約をお勧めします。お問い合わせは大根支所（☎77－1660）または鶴巻支店（☎77－0840）まで。

カラオケ大会を開催

11月19日（日）の農業まつりで、カラオケ大会を開催します。市内在住の方ならどなたでも参加いただけます。特にお子さまの参加大歓迎です。この機会にぜひ、自慢ののどを披露してみませんか。参加申し込みは10月27日（金）まで。応募者多数の場合は抽選となります。抽選の場合、10月末までに結果をご連絡します。

お問い合わせは企画課まで。☎81－7714

2017年度米穀の検査集荷について

2017年度米穀の検査集荷を下表の通り実施します。お持ち帰り検査を受検する方は、◎印の検査日（計3回）にお願いします。指定日以外は実施しません。大根以外の地区の方は、持ち帰り専用の検査日もご活用ください。

また、庭先集荷を希望される方は、3営業日前までに各支所へお申し出ください。集荷運賃は1袋（30㌔）当たり60円で、口座から徴収します。お問い合わせは営農課まで。☎81－7718

本年検査予定日	検査場所	該当地区
9月28日（木）	大根	大根
10月3日（火）	大根	大根
10月6日（金）◎	本所	大根以外　全地区
10月10日（火）◎	大根	大根
10月13日（金）	大根	大根
10月17日（火）	大根	大根
10月20日（金）	大根	大根
10月24日（火）	本所	本町
10月31日（火）◎	本所	全地区持ち帰り検査
11月7日（火）	本所	東・南・西・北・上

一つのいがに栗の実5つ

上大槻の監物周作さん

上大槻の監物周作さんの栗畑で、5つの栗の実が入ったいがが見つかった。

普段はカーネーションなどを栽培している監物さん。栗畑も管理していて、多くの実が入っている栗が数年に一度見つかるという。

監物さんは「拾ってみると実がたくさん入っていたので驚いた。珍しいので家に飾ろうと思う」と笑顔で話した。

図書室のご案内

本所農業団地センター

3階の図書室には農業をはじめ、料理やガーデニング、健康など、生活に役立つジャンルの本が5000冊以上並んでいます。家の光協会出版の新刊図書の閲覧もできます。どなたでもご利用できますので、ぜひ図書室をご活用ください。

◎貸出日数　2週間、1人3冊まで
◎開室日　月～金曜（祝祭日を除く）
◎開室時間　午前8時30分から午後5時まで
◎貸し出し・返却　図書室にある専用の用紙に必要事項を記入するだけの簡単な手続きです。

お問い合わせは組織教育課まで。☎81－7711

秦野市畜産まつり

（第61回畜産共進会）開催

家畜コンテストの畜産共進会と併せて「畜産まつり」を開催します。秦野市の畜産に触れ合うことができる機会なので、ご家族そろって遊びに来てください。

◎日時　10月1日（日）午前10時～午後2時
◎場所　田原ふるさと公園中丸広場
◎出品家畜　乳牛
◎内容　小動物ふれあいコーナー、乗馬・乳搾り体験、堆肥の無料配布、豚肉バーベキュー・焼きそばの模擬店などお問い合わせは、はだの市農業支援センターまで。☎81－7800

ホームヘルパー募集

JAはだのケアセンターでは、ホームヘルパーを募集しています。年齢不問。働きやすい職場ですので、お気軽にお電話ください。

◎業務内容　訪問介護員2級養成研修課程修了者、要普通免許
◎時給　1200円（土日祝の加給有り）※採用3カ月までは時給1000円
◎時間　午前8時～午後6時　※時間・勤務日は応相談
◎待遇　制服貸与、交通費規定支給

お問い合わせはJAはだのケアセンターまで。☎83－7210

野焼きと農薬使用について

屋外における焼却（野焼き）は、「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」で規制されています。

農林業者については、自己の農業・林業の作業に伴って行う焼却で、軽微なものに限り例外として認められています。

やむを得ず農地などで野焼きを行う際は、マルチなどのプラスチックを取り除き、煙などによる周囲の生活環境に影響がないように、乾燥させてから少量ずつ焼却し、風向き、時間帯などの配慮をお願いします。

なお、生活ごみや剪定（せんてい）枝などは、市の収集日に出すなど決められた方法で処理をしてください。

住宅地に隣接する土地などでの農業使用に当たっては、「農林水産省消費・安全局長、環境省水大気環境局長通知」で使用者の遵守事項が規定されています。やむを得ず使用する場合は、飛散・臭気などにより周囲の生活環境に影響がないように、事前に周辺の方に知らせる他、風向き・時間帯などの配慮をお願いします。

生産緑地地区の取得あっせんについて

秦野市から生産緑地法第13条に基づき、下表の通り生産緑地のあっせん依頼がありました。

農業に従事される方で、生産緑地として取得を希望される方は、10月20日（金）までに秦野市都市政策課都市計画担当までご連絡を。☎82－9643

土地の所在および地番	地目	面積（平方㍍）
堀山下602番	畑	1203
北矢名1224番2	宅地	20.49
南矢名2295番2	田	274

じばさんずNEWS

【10月のイベント】

☆「果物フェア」1日（日）、14日（土）、15日（日）、21日（土）、22日（日）、28日（土）
秦野産・産地提携先の旬の果物を用意します。

☆「新米まつり」7日（土）、8日（日）、9日（月）
秦野産の新米が登場！購入者には素敵なプレゼントがありますよ。

☆「ユースマルシェ」7日（土）
青年部員がネギやサツマイモ、小菊などを対面販売。

☆「おすすめ品」7日（土）、8日（日）
お酒のお供になる乾物などを豊富に用意します。

☆「国産加工豚の日」7日（土）、21日（土）
㈱フリーデンが国産豚を使用した加工品を試食販売します。

☆「ハロウィン」31日（火）
ハロウィンカボチャやお菓子などを用意します。

☆「たまごの日」毎週月・金曜日
店頭価格から10％引き。
※「みくるべ卵」は除きます。

☆「試食の日」毎週火曜日
生産者が出荷している旬の野菜やレシピを紹介します。

☆「お米の日」毎週水曜日
店頭価格から10％引き。

☆「お肉の日」毎週木曜日
店頭価格から５％引き。

※準備の都合上、イベントが変更になることがございます。ご了承願います。

今月の生産者

小養毛の向原（むこうはら）洋子（ようこ）さん

出荷品目　コロッケなどの加工品を季節ごとに具材を変えながら年間15種類ほど

地場産の旬の食材を使い、じばさんずでしか手に入らないものを意識してレシピを考えています。今は、通年商品の「キャベツメンチ」の他、季節限定の「みそピーコロッケ」や新商品の「たこ焼きポテト」などを出荷していますので、ぜひ手に取ってみてください。

お問い合わせは秦野市環境保全課まで。☎82－9618

ゆうちょ銀行のATM手数料変更について

JAはだのではこれまで、JAバンクのキャッシュカードで平日日中（8時45分～18時）にゆうちょ銀行ATMをご利用（出金など）いただく際の手数料を全国統一で無料としておりましたが、昨今の金融情勢などを勘案し、平日日中以外の手数料も含めて平成29年10月2日から見直しいたします。

詳細については当JAホームページをご覧いただくか、各支所・支店または信用課（☎81－7716）までお問い合わせください。

さわやか農園利用者募集

JAはだのは、荒廃農地対策の一環として設けている「さわやか農園」の利用者を募集しています。

◎場所・面積　菩提505番地（306平方㍍）※小規模などへの区画変更はできません。
◎利用料　年間6000円（100平方㍍当たり）※面積に応じて割り引きがあります。

区画が埋まり次第終了となります。利用を希望される方は、北支所・栗原までお問い合わせください。☎75－1629

協同の力を発揮！ 改革に一丸となって取り組もう

組合員の皆さまの意見や要望をJAの運営に反映し、組合員参加による協同組合運動を高めようと、秋の座談会を9月29日（金）から10月12日（木）まで市内83会場で開きます。

2017年度の上半期事業報告やJAはだの自己改革についての情報などを報告します。

また、日頃JAについて疑問に思っていることや、ご意見・ご要望をぜひお聞かせください。組合員の皆さまのご出席をお願いいたします。

秋の座談会にご出席ください

9月29日（金）から
10月12日（木）

市内83会場で開催

JAはだの

発行所
秦野市農業協同組合
（神奈川県）
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711㈹
編集兼発行者 宮永 均
印刷所 ㈱JA情報サービス

上半期の主な軌跡

6月 June

▶TACがJA全農かながわ中央ベジフルセンターと連携し、㈱小田原百貨店を中心に地場産農産物の出荷を拡大。同社渋沢店への出荷を開始しました＝**写真**。

▶組合員教育事業の国外視察研修で13人がベトナムを訪問。現地の農協や小学校を訪れ、国際交流を深めました。

▶鶴巻地区の農家で構成する鶴巻営農組合が、スクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）の駆除を実施。作業にはJA役職員も参加し、地域と一体となって防除に取り組みました。

3月 March

▶女性部が、1年の活動と成果を記録した女性部誌「ひろば」30号を発刊しました。また、多くの部員に全体行事の運営に参加・参画してもらう「女性部サポーター」制度を新たに設置しました＝**写真**。

▶はだの都市農業支援センターによる「はだの市民農業塾」を開講。新たな担い手の育成に励んでいます。

▶販売力強化に向けた取り組みの一つとして「はだの丹沢梨サイダー」を販売。原料に果樹部会梨部の部員が丹精して栽培した梨を使用しました。

7月 July

▶青年部が、観光農業振興を目的に取り組む体験型のイベントを開催。24組70人以上の家族が、茶作りとミニトマトの収穫体験を楽しみました＝**写真**。

▶第21回夏休み子ども村を長野県飯山市周辺で開催。172人の児童が、野菜の収穫体験や郷土料理作りなどを通して、食と農の大切さを学びました。

▶国際協同組合デーに合わせ、各店舗で来店者に秦野産の花苗と国際協同組合デーの概要などを記載したちらしを手渡し、協同組合への理解を促しました。

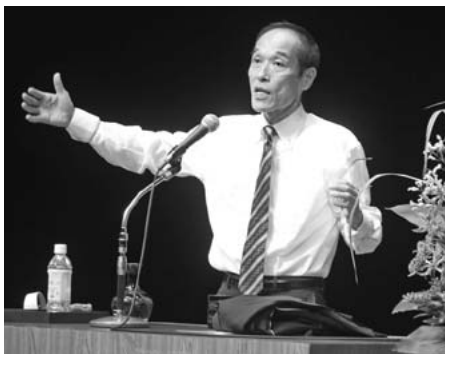
4月 April

▶秦野市園芸協会主催の春まつりに、地域住民ら約8,000人が来場しました。会場では花き部会カーネーション部が、「母の日」のPRに地場産カーネーションを配布しました＝**写真**。

▶春の座談会を市内83会場で開き、組合員1,274人が出席。644件の意見・要望が寄せられました。

▶JAカードを用いてじばさんずで買い物をした場合、決済時に合計金額から5パーセントを割り引くサービスを始めました。これまで以上に新鮮で安全・安心な地場産農産物を消費者に購入してもらい、農家の所得向上につなげます。

8月 August



▶元宮崎県知事の東国原英夫氏を講師に招き、文化講演会を開きました。組合員や地域住民ら1,220人が来場しました＝**写真**。

▶やさい部会いちご部が育てたイチゴを使った「はだの丹沢苺（いちご）サイダー」の販売を開始。地場産農産物を活用したじばさんずオリジナル商品の第7弾です。

▶創立記念式に組合員と役職員115人が出席。式典では、協同活動顕彰基金により3人を表彰しました。

5月 May

▶次世代を担う子どもたちを対象にした「ちゃぐりんスクール」を開校。組合員の協力の下、野菜苗の植え付けや料理教室などのカリキュラムを通して食と農の大切さを学んでいきます＝**写真**。

▶第54回通常総会を文化会館大ホールで開催し、6議案を可決。組合員1,703人が出席しました。

▶本町支所新店舗の建設工事が始まり、起工式にJAの役職員や組合員、関係者ら32人が出席。工事の安全と円滑な施工を祈願しました。

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用 70% RECYCLED PAPER

豊かな社会を協同の力で！

2017年度上半期の状況　JAはだののすがた

2017年8月31日現在
(　)内は前年同期実績
数字は単位未満切り捨て

11 万一に備えての共済

長期共済新契約高 **298**億円(205億円)

長期共済保有高
4,513億**4**千万円 (4,550億5千万円)

上半期に支払った事故共済金額
750件　**5**億**7**千万円
(675件　4億6千万円)

内訳
- 生命 **392**件　**3**億**9**千万円 (340件　3億1千万円)
- 建物 **82**件　**8**千万円 (50件　2千万円)
- 自動車 **276**件　**1**億円 (285件　1億3千万円)

8 くらしのための共同施設の利用

- JAセレモニーホールはだのの運営の充実強化
- 利用者に満足いただける旅行の提供

全体の取扱高 **3**億**1**千万円(3億2千万円)

主な施設の取扱高
旅行センター　**4**千万円 (7千万円)
JAセレモニーホールはだの
105件　**2**億**5**千万円 (110件　2億4千万円)

6 健康と福祉の取り組み

- 「JA健康寿命100歳プロジェクト」の展開
- 高齢者福祉活動の充実
- 生活文化活動や子育て支援への取り組み
- 健康福祉基金による支援活動の充実

▶人間ドック受診者
利用者人数 **300**人 (270人)

▶乳がん・子宮がん検診受診者
利用者人数 **50**人 (44人)

▶長寿記念品の贈呈
利用者人数 **90**人 (107人)

4 安全・安心な農産物の供給

- 「はだのじばさんず」を中心とした新鮮で安全・安心な農産物の供給

はだのじばさんずの利用状況
利用者総数 **28**万人 (29万人)
1日当たりの利用者数 **1,528**人 (1,590人)
取扱高 **4**億**9**千万円 (5億円)
1日当たりの取扱金額 **271**万円 (281万円)

全体の取扱高
12億**2**千万円
(12億9千万円)

1 みんなの仲間

組合員数 **14,331**人 (14,172人)
- 内訳 正組合員数 **3,001**人 (2,961人)
- 内訳 准組合員数 **11,330**人 (11,211人)

組合員戸数 **11,763**戸 (11,644戸)
- 内訳 正組合員戸数 **2,339**戸 (2,343戸)
- 内訳 准組合員戸数 **9,424**戸 (9,301戸)

2 資本の状況

資本の合計
152億**7**千万円 (152億円)
- 内訳 出資金 **17**億**8**千万円 (18億円)
- 内訳 準備金・積立金他 **134**億**8**千万円 (134億円)

単体自己資本比率 (2017年2月28日現在)
17.85%
(国の基準4%以上、JAバンク自主基準8%以上)

※資本は、貸借対照表の「純資産」のことです。

12 活動のみのり

上半期剰余金
1億**7**千万円 (2億7千万円)

9 便利で安心JAバンク

- 特別貯蓄運動・キャンペーンの実施
- 年金相談会の開催

貯金残高
2,182億円 (2,189億円)

13 ㈱協同コンサルトはだの

- まかせて安心JAのマイホーム建設
- 入居者に喜ばれる共同住宅のあっせん

入居率
95.2%
(95.6%)
※入居率はJA系統の管理会社2社の数値です。

10 農業・生活・事業資金などの融資

- 農業振興や生活・事業などの資金対応
- 休日ローン相談会の開催
- 住宅・マイカー・教育ローンとくとくプランの実施

貸出残高
409億**2**千万円 (401億5千万円)

7 共同購入でくらしを豊かに

- 予約購買による生産資材の供給
- 安全・安心な生活物資の供給

全体の供給高
16億**1**千万円 (20億2千万円)
- 内訳 生産資材 **6**億**5**千万円 (6億4千万円)
- 内訳 生活物資 **9**億**5**千万円 (13億8千万円)

5 営農活動の取り組み

- 営農指導の充実
  - ・営農指導員の確保と体制整備
  - ・TAC活動を通じた有用な情報提供機能の強化
  - ・地域の特性に合った振興作物の選定と生産拡大
- はだの都市農業支援センターとの連携
  - ・体験型農園オーナー制度や旅行会社と連携した観光農業の取り組み
  - ・鳥獣被害防止に向けた取り組み

3 組織活動 教育広報の取り組み

- 協同組合活動の啓発と組織リーダーの育成を目的に、協同組合講座を開講
- 次世代対策活動の充実を図るため、「ちゃぐりんスクール」「夏休み子ども村」を開催
- 生産組合組織の活性化に向け、「生産組合活動活性化基準」の活用を呼び掛け
- 農政活動の取り組みとして、市長などに農林業施策・予算要望の要請書を提出

JAはだの自己改革への挑戦（上半期の主な取り組み報告）

2017年8月末現在

重点実施事項	上半期主な取り組み
営農指導事業強化に向けた取り組み **（担い手の育成・支援）**	●営農指導強化と営農課職員の資質向上を目指し、資格取得に取り組みました。（営農指導員認証1人、農産物検査員養成研修3人修了） ●農業振興作物の生産拡大に努めました。 ニンジン：販売振興作物として共販体制の整備と産地化育成に取り組みました。（15件・60アール） 泥付きラッキョウ：JA全農中央ベジフルセンターと連携し試験栽培を開始しました。（4件・4アール） ソバ：上支所運営委員会と上地区営農推進協議会のそば作り教室と連携しました。（27人・11アール） エゴマ：鳥獣被害対策作物として作付けの拡大を図りました。（10件・44アール） ※前年度販売を開始したエゴマ油225本は7月に完売しました。 ●GAP（農業生産工程管理）の取り組みについて検討しました。 ●TACと融資担当者が連携して担い手農家を訪問。農業資金相談に対応し13件を実行しました。
販売力強化に向けた取り組み	●販路拡大の要望に応え、新たにブロッコリー、ニンジンをJA全農中央ベジフルセンターへ販売しました。 ●JA東京アグリパークのイベントに参加し、秦野産農産物・農産加工品をPRしました。 ●TAC活動により、新たに小田原百貨店渋沢店への地場野菜コーナーの設置やイオンへのハウスぶどうの販売を開始しました。 ●販売力強化に向けた取り組みとして「はだの丹沢梨サイダー」「はだの丹沢苺サイダー」を製造販売しました。 ●「峠のそら豆」を産地間提携を結ぶJAちば東葛農産物直売所「ふなっこ畑」へ販売しました。 ●余剰農産物を加工用として販売し農家所得の向上に努めました。（加工用ナス497.5キロを集荷） ●農産加工者の所得向上を目指し「農産加工セミナー」を2回開催。27人が参加しました。 ●冬至カボチャの販売に向けて予冷庫を活用した貯蔵試験を実施しています。 ●女性部の共同購入に「じばさん品」コーナーを設置しました。 ●じばさんずで5%引きの特典があるJAカードの入会キャンペーンを実施しました。
生産購買強化・再構築に向けた取り組み **（生産資材価格メリットの提供）**	●取引業者やホームセンターの生産資材価格を把握した中で、JA全農と比較して仕入れ単価軽減を図り、生産コスト低減に努めました。 ●有害鳥獣対策としての電牧器の助成を継続するとともに、JAグループ神奈川の「農家所得増大・地域活性化応援プログラム」の推進・活用を図りました。 （電牧器助成上期支払い分　67件　1,557千円　応援プログラム有害鳥獣分受け付け　5件　274千円） ●予約購買に係る大口値引き基準の見直しを行い、生産コスト低減に努めました。（肥料50袋→30袋、農薬購入価格10万円→7万円以上は各予約値引き+3%値引き） ●JAグリーンの集客増加と生産資材価格低減に向けたキャンペーンを継続的に実施しました。
組織運営・経営管理改善に向けた取り組み	●正組合員加入促進運動を実施し、40人増加しました。 ●各支所で地域に根差した協同活動を実施しました。 ●「JAはだのみんなで地産地消運動」に取り組みました。 ●2018年5月の役員改選手続きに向けた諸規程の変更と役員選出の仕組み構築に取り組みました。 ●営農経済改革実践報告の冊子を作成し、7月の訪問日で正組合員世帯へ配布しました。 ●全職員に対し農協改革に関する理解促進に向けた研修会を開催しました。 ●デジタルサイネージ（電子看板）を全店舗のロビーに設置し、農業のPRを図りました。

地域活性化へ！支所運営委員会の取り組み

JAはだのは、協同組合運動の躍進に向けて「支所運営委員会」を各支所に設置し、准組合員との関係強化や組織基盤の底上げを目指しながら地域に根差した活動を実施しています。

支所運営委員会は、メンバーを各地区の理事や生産組合、女性部、青年部などから選出。各組織の活動を参考にしながら、組合員や地域住民の意見を反映した協同活動を展開できるよう努めています。地域農業振興にかかる課題の解決や地域の絆づくりなどに取り組むとともに、これまで以上に地域から信頼されるJAを目指して活動を進めていきます。

以下に、2017年度上半期の主な取り組みを記載します。

2017年度上半期の主な取り組み

開催例

◆朝市に参加し、地場産農産物などの販売を通して地産地消をPR（本町）

◆サツマイモ収穫体験を開催するにあたり苗の植え付けを実施（東）

◆農家が新たに開園するラッカセイの体験型農園をバックアップ（南）

◆地場産農産物販売所、観光農園の集客を高めるため、北地区農産物情報マップを作成（北）

◆貯蓄運動時に来店者に地元産のお茶を配布しPR（北）

◆農業理解を深めるため、農業学習会を開催（北）

◆地域交流のイベントとして「四十八瀬川の源流を訪ねる集い」を開催（西）

◆地域との交流を図るため、西幼稚園のバザーに参加し、地場産農産物を提供（西）

◆食農教育の一環として上幼稚園でジャガイモとタマネギの栽培指導をした他、上幼稚園と上小学校に地場産農産物を寄贈（上）

◆荒廃農地の解消を目的にそば作り教室を開催（上）

◆地域との交流を図るため、グラウンドゴルフ大会を開催（上）